## **OOMORICAFÉ**



と一緒に、私も青春時代

ている今作。「主人公たち 長していく青春物語となっ 聴者との壁を乗り越え成

の風景は、 がしてとても好きですね」 大森で生まれ育ち「地元

懐かしい感じ

と語る西川さん。小学生

その柔らかな物腰とは裏

志の強さがうかがえる。

な少女が、ダンスを通じて聾学校に通う耳の不自由

自らのハンディキャップや

てきました」と西川さん。

やめたら次の作品も出来 声を掛けましたね。ここで

ないと思って、

命がけでやっ

物語を描く一枚の絵の中に

2011 年夏に公開された映画『あぜみちジャンピンッ!』。 聾学校に通 う少女が、ふとしたきっかけから聴者のストリートダンスチームに参加 することに。ダンスやチームメイトとの交流を通して、彼女が成長して ゆく姿を描いた青春ドラマだ。今回は、大森出身で、今作で初の長編映 画を手がけた若手映画監督、西川文恵さんの魅力にせまる

(取材・文=海老澤圭)



@ cafeでは大森 編集部がその素 顔に迫ります。

資金難に悩まされながら

|○○九年の完成から

三作目となり、

とができる。

映画そのもののサポート

モ国内外の数々の賞に輝

<u>\_</u>

年ようやく

今後の上映情報をチェック! 『あぜみちジャンピンッ!』公式サイト http://www.aze-michi.com/

ちジャンピンッ!』。「80個

上映にこぎつけた『あぜみ

くらいの映画祭に自分から

くって、そこに時間や音楽 いう。「絵を描くよりも、 枚の絵の中で物語をつ



制

ア国際映画祭に出品 撮影・プロデュースの三役 局の仕事やアルバイトをこ 作 Sh---e >ou s 第59回ヴェネツィ 自ら脚本・ テレビ

舞台とした『あのころ…ら ○○六年には池上周辺を あるロンドンに留学。卒業 ク・ジャーマンの出身校が 敬愛する映画監督デレ 画を選びました」。 なったんです。それで、 高校卒業後は、 といった要素を入れたく 自身が 映 劇場映画監督デビューを ummer 果たし、二〇〇七年には『す

映画の魅力に目覚めたと ていたが、高校生の時に 美大を目指して勉強をし しとが好きだった。

ジャンピンッ!』 our スール』を発表。 レ東中野にて上 初の長編作品『あぜみち 好評を博  $\overline{\bigcirc}$ 年夏には、 映され、 ーがポレポ

Negor--en € 自身 もたちが自らカメラをエ 開催されたワークショップ ある入新井第四 映画を撮る楽しさを伝え にも挑戦。 そして同年には、 母校で

色んな人に映画をつくって ろうという気持ちがあれ 思いを持つ西川さん。 とがある新しい景色。 道から逸れると見えるこ すね」と語る。 けれど、誰も見たことの もらいたいという。 ನ್ಯ ば れからは、今存在している んな景色に西川さんは新 ない風景を描いてみたいで 今後の展望について、 あまり気負わずに、 映画は誰にでもつくれ

夫して撮影する姿があっ いつの間にか、子ど 子どもたちに 一小学校で を知ってほしいという強い

2011年1月 **桑田健秀さん** [NPO法人ピボットフット理事長] NO. 25 中西桐子さん [二胡奏者] バックナンバーはウェブで! <sup>®</sup> www.oomori-cafe.com い物語を見出す

つくるもの映画は社会が を務め、 なしつつ映画を制作。 卒業後は帰国し、

4面のご案内

28 2011年7月 石橋正之さん

濱田ひとみさん バルーンデコレー

★ ひ と まちで出会った、頑張って いるひとの素顔に迫ります。 欠はあなたかも…?

ミューディの人々が、 験もあり、異なるコ 籍の人と出会った経 いかに差別を克服し 留学先で様々な国

今作。 団であるダンスチー 今作では、 たという西川さん。 のテーマとなっている 西川さんは、 描かれている。 ムに入った聾者の主 ていくかを描きたかっ 手話とダンスが一つ 公の感情が繊細に 聴者の集

き けている感じが好きなんで 葉はないけど何かを語りか とダンスチームのキャブテ だという。「主人公の優紀 に踊るシージ によらないコミューケーショ ンを表現することが好き \麗奈が二人で鏡あわせ ンがあって、 言葉  $\equiv$ 

写することで、 場面だ。 音の聞こえない世界を描 をする時に、 とるシーンは印象的だ。 上げた音の振動でリズムを 主人公の視点で描かれる もう一つ注目したいのが 主人公がダンス ボリュームを 観客は主

П

ラーが訪問した長岡聾唖 出身地であり、ヘレンケ

学校があるなど、聾唖教

て知られている。 育の伝統を持つ地域とし

公の感覚を共有する

は、近代聾唖教育の父、舞台として選ばれた新潟

川さんはふりかえる。

できた気がします」と西 をもう一度過ごすことが

小西信八

西信八(のぶはち)の近代聾唖教育の父、

ぶはち) の

子どものころ慣れ親しんだ、大森西にある内川と カヌーを題材にしたいという夢も。

あり、 目が離せない

とにあるという。つまり 個人の気持ちを押し出す ての経験も増してきた西 今作で劇場映画としては さん。監督の役割は、 映画に奉仕するこ 監督とし どもたちに良質な映画を 届ける環境づくりにも関 品づくりだけでなく、 心を寄せるのはそのため に受け入れられ、 自分のつくつた映画が社会 す」と西川さんは語る。 つくるものだと思うんで 仕事だというのだ。 徹するのが、映画 ことが、西川さんの願いで 観客の心に根づいてくれる 今後の西川さんの活躍 からに「映画は、 喜びだという。 多くの 社会が |監督の 3 作

| STAFF | Publisher / Editor in chief 編制 修 Art Director / Editor/Advertising / Photographer(4) たかだあや Writer 高橋陽子・小林仁美(1) 大山砂鹿(3) 海モ澤圭(4) ※ Special Thanks クラカタヒロジ 大森まちづくりカフェ 第29号 2011年あき号 tel/fax: 03-5935-7881 アンケートの宛先はこちら! 2012年1月1日発行



03-3776-1275 🗐 6:00~21:30 🚯 年中無休 (コベルは定休あり)



